

特別賞（耐震）

タイトル **小さな家の 大きな食卓**

タイプ 持家連続建  
構造 在来木造

講評 階段の位置を中央に変更するという大胆な発想だが、耐震補強と階段の移設をうまく組み合わせ、それを計画にも生かしている。また、補強材も圧迫感を生むことなく、うまく溶け込んだデザインとなっている。

リフォーム・リノベーション前後の写真



A・部屋の中央にトップライトからの光が注ぎます



C・ブラックチェリーの無垢板を使ったバーカウンター。経年変化を楽しめる材料を選びました

小さな家の大きな食卓



E・床座で使う居間、天井の低さも感じません。材料はヒノキで統一



E・階段下に寝具を収納し、夜中だけ寝室に変わります



B・ワンルームの空間を、緩やかに仕切る構造補強・南北に通風窓、壁を珪藻土として空気環境を改善している



D・光の入らないサニタリーは、照明を生かして質感のある材料でホテルタイプなら時間を分けて使いこなせば広々使えます、二人の生活なら容易です



G・ひと際華やかな外観 H・昔の家の壁がのぞくニッチ I・カウンターの内部は家電やゴミ箱・食器など収納



昔a・くすんでしまった外観 昔b・各部屋が狭い 昔c・冷蔵庫や家電の置場がない  
リフォーム前の建物の様子・和室の続き間と使い勝手の悪い台所、収納も少なく、夏熱く冬寒い。

リフォーム・リノベーション前（平面図（必須）、その他従前の特徴を表す図面等）

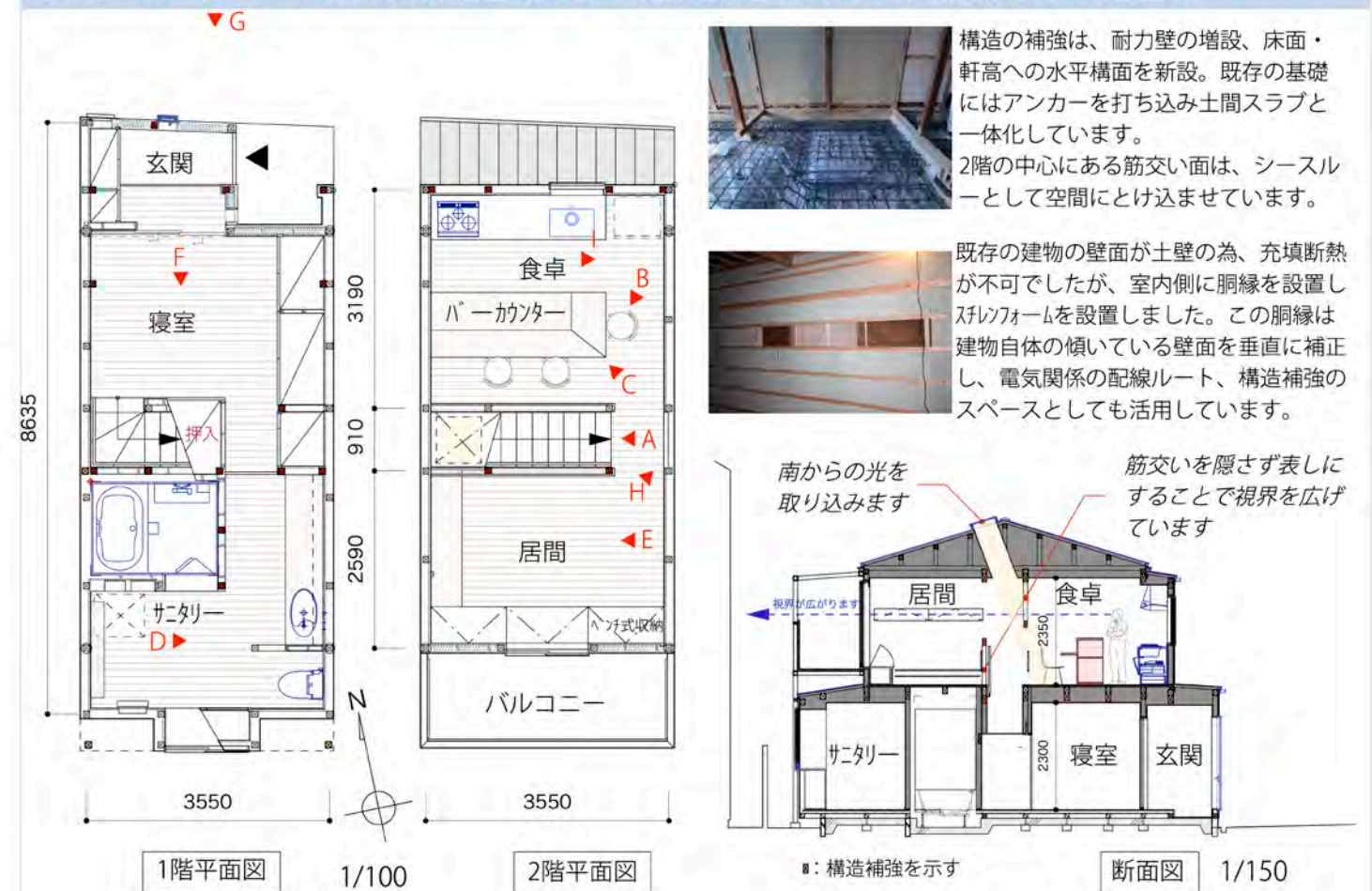


既存の建物は、築40年の四連棟の長屋でした。その後、東側から順次建て替えが進み今回の建物だけが残される形になっていました。間取りは各階二間の2階建。設計前の調査で、構造的な問題が多数見つかったので、間取りの変更と構造の補強を一体とする計画を立てることにしました。



構造については、床下は外周部にのみ基礎がありました。中間のCB基礎が土中に沈み床がたわむ原因になっていたり、耐力壁は土壁であり、梁せしも低く火打梁もないことから、剛性が十分ではないことが容易に見て取れました。断熱材もなく隙間が多いことから、生活空間としての機能向上も必要と判断される建物でした。

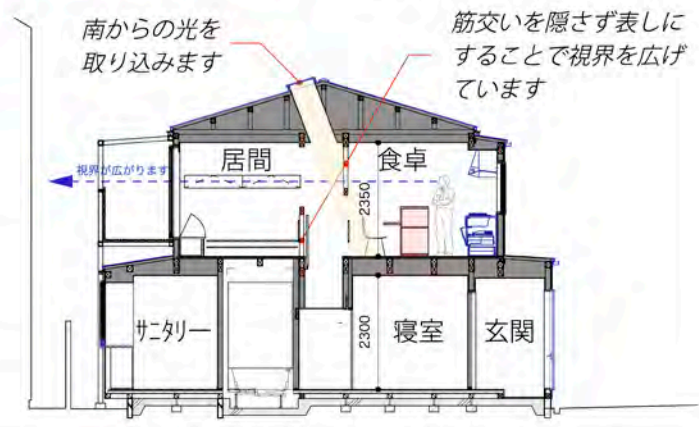
リフォーム・リノベーション後（平面図（必須）、展開図などデザインの特徴を表している図面等）



構造の補強は、耐力壁の増設、床面・軒高への水平構面を新設。既存の基礎にはアンカーを打ち込み土間スラブと一体化しています。2階の中心にある筋交い面は、シースルーとして空間にとけ込ませています。



既存の建物の壁面が土壁の為、充填断熱が不可でしたが、室内側に胴縁を設置しスリフォームを設置しました。この胴縁は建物自体の傾いている壁面を垂直に補正し、電気関係の配線ルート、構造補強のスペースとしても活用しています。



■：構造補強を示す 断面図 1/150

提案された住まい方やまちへの貢献に関するデザイン上の工夫など

築40年・建坪8.5坪の小さな家のリフォームです。大阪にはまだまだ残された住宅密集地で、通風や採光も十分に確保できない建物でした。この小さな家での夫婦二人での生活で一番の楽しみは食事の時間！食の都・大坂らしく食べることを中心に生活を楽しめる空間へのリフォームをめざしました。昨今、ダイニングと言えば同じ空間でも、テーブルとキッチンが独立し、居場所としては分断しています。今回は狭さを克服することも踏まえて、小料理屋の様にカウンター式のキッチンとしました。配膳や片付けがスムーズだけでなく、つくる人、待つ人がそれぞれ向きあい調理中からだんだんと会話が始まります。家の中心となるこのカウンターキッチンは2階を広く見渡せ、トップライトからの光も降り注ぐ一番の心地よい場所となりました。小さな家だからこそ、間取りの作り方、素材のことや色のことなど、家の隅々までポジティブにとらえ直すことで、ライフスタイルを刷新する楽しみのある住まいとすることが出来ました。古くすんでしまった町並みに、朱色に生まれ変わった住まいがご近所との対話も生み出すこととなっています。

デザインに反映した居住者（住まい手）のニーズ

小さくても快適に暮らせる家にするのが一番のニーズでした。まずは構造の補強により、生活空間が圧迫され不自由に感じるようなことが無いように注意を払いました。断熱性や明るさなど基本的な快適性の向上を念頭に、水廻りの使い方や、食卓の様子など事細かに検証して、今までのライフスタイルを少しずつ変更することで狭さを克服するデザインとしました。実際に手や目の触れる壁や床・カウンターなどを無垢の木やタイル珪藻土として感覚的にも心地よい物を採用しました。またスペースの配分にも余裕を持たせて狭さを感じない様にしています。

居住者（住まい手）の感想

壁を取り払い全てを作り替えるリフォームだったので、痛んでいるところも確認しながら修繕できたので安心感がありました。狭いことが気がかりでしたが、使い方がよく考えられているので、今も楽しく生活できています。小さくても気持ちは大きくゆとりを持つことができたので本当に良かったです。サニタリーの雰囲気は、ホテルみたいでお気に入りです。

データ

○所在地	松原市	○築後年数	40 年	○工事費	1350 万円	○工事期間	100 日間	○設計会社	akka一級建築士事務所	／ 担当者	永井智樹・小山明子
○用途地域	第1種住居地域	○敷地面積	35.98 m <sup>2</sup>	○建築面積	31.12 m <sup>2</sup>	○リフォーム部分面積	53.52 m <sup>2</sup>	○施工会社	いなせ建設株式会社	／ 担当者	佐藤礼二
○居住者構成	総人数 2 人	うち 15 歳未満	0 人	うち 65 歳以上	0 人	ペット	なし	○性能向上の特性	<input checked="" type="checkbox"/> 耐震性能 <input type="checkbox"/> 高齢者等への配慮（バリアフリー） <input checked="" type="checkbox"/> 省エネルギー対策		
		<input type="checkbox"/> 単独 <input checked="" type="checkbox"/> 夫婦のみ <input type="checkbox"/> 夫婦+子 <input type="checkbox"/> 親+夫婦+子（三世代） <input type="checkbox"/> ひとり親+子						<input type="checkbox"/> 防犯性能 <input type="checkbox"/> 維持管理対策 <input checked="" type="checkbox"/> 室内空気環境 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
		<input type="checkbox"/> その他の親族（親族関係者のみ） <input type="checkbox"/> 親族以外（シェア居住の場合など） <input type="checkbox"/> その他									



タイトル **小さな家の大きな食卓**